

Macrocosmic Spiral : Traditional Design for Life in the Euro-Asian World

渦 卷 の
大 宇 宙

マ ク ロ コ ス モ ス

—— ユーロ=アジア文明をつらぬく生命デザイン ——

実施報告書

多摩美術大学 芸術人類学研究所



Institute for Art Anthropology, Tama Art University

目次

| | |
|---------------------|----|
| 01 主催挨拶 | 3 |
| 02 開催概要 | 4 |
| 03 展示構成 | 5 |
| ①アーケードギャラリー | |
| ②閲覧室 1 階 | |
| ③閲覧室 2 階 | |
| 04 関連企画 | 7 |
| 05 来場者数 | 9 |
| 06 展覧会サポーター | 10 |
| ◎参加者数／活動内容 | |
| ◎サポーターのプロフィール | |
| ◎サポーターアンケートの結果 | |
| 07 広報・プロモーション | 13 |
| ◎ウェブ | |
| ◎制作物 | |
| ◎その他 | |

01 主催挨拶

2019年6月28日から7月14日にかけて、多摩美術大学芸術人類学研究所は、展覧会「渦巻の^{マクロコスモス}大宇宙——ユーロ=アジア文明をつらぬく生命デザイン——」を、多摩美術大学八王子図書館・アーケードギャラリーを会場に開催いたしました。15日間の会期中には、学内外から約3,600人に及ぶ多くの皆様にご来場いただき、盛況のうちに無事終了することができました。

本展では、ヨーロッパの古層を築いたケルト芸術文化とユーロ=アジア世界の装飾文化を「生命デザインの交流」という視点から紹介しました。先史時代から「生命・再生のシンボル」として民族・地域・時代を越えて表現されてきた「渦巻文様」をはじめ、「動物文様」「植物文様」「幾何学文様」「組紐文様」「人型文様」を取り上げ、住居、装身具、衣装、工芸品などの実物資料78点を中心に、写真、映像などを加え展示しました。会期中には、多様な分野からゲストを迎えたトークイベント、講演会、ミニライブを実施し、ご来場いただいた多くの方々にさまざまな「文様/装飾の表現」を通じて「生命のかたち・デザイン」を^{しる}徴す人類の営みに触れていただく機会となりました。

このたびの展示は、昨年、本学アートテーク・ギャラリーにて開催した展覧会「はじまりの線刻画——アイルランド・スカンジナビアから奄美群島へ——」に続き2回目となる大規模な主催展でした。本学図書館の協力により、アーケードギャラリーだけでなく閲覧室1・2階の一部を展示会場とするなど、研究所と図書館にとっていくつか新しい試みがありました。また、本学学生による展覧会サポーターは昨年以上に幅広い活動をおこない、本展の成功に大きく貢献してくれました。芸術人類学研究所は、今回の展覧会で得ることのできた成果と課題を活かし、今後も学内外とのさまざまな連携によって、人類のあらゆる創造を刺激する多彩な活動と発信をおこなってまいりたいと考えております。

最後になりましたが、ご来場いただきました皆様をはじめ、本展の実現のために多大なるご支援、ご協力を賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。また、今後とも多摩美術大学芸術人類学研究所へのご高配を賜りますようお願い申し上げます。

2019年10月
多摩美術大学 芸術人類学研究所

02 開催概要

渦巻の大宇宙 ^{マクロコスモス} ——ユーロ=アジア文明をつらぬく生命デザイン——

- 会 期** 2019年6月28日（金）～7月14日（日）
*開催日数：15日間
*休館日：6月30日（日）、7月7日（日）
- 開場時間** 9:00～20:30（土曜日・最終日は17:00まで）
- 入 場 料** 無料
- 会 場** 多摩美術大学 八王子図書館・アーケードギャラリー、閲覧室1・2階
（東京都八王子市鎌水2-1723）
- 主 催** 多摩美術大学 芸術人類学研究所
- 後 援** アイルランド大使館 | 日本ケルト協会 | カフェ・バッハ
- 協 力** 多摩美術大学図書館
- 監 修** 鶴岡真弓（多摩美術大学 芸術人類学研究所所長・芸術学科教授）
- 運 営** 芸術人類学研究所：大友真希（キュレーター） | 有馬智子 | 大西由佳
- 特別協力** 多摩美術大学美術学部・大学院美術研究科学生有志（展覧会サポーター）
- 施 工** 株式会社 東京スタジオ
- グラフィックデザイン** 尾崎房
- 設営協力** 大野亜紀 | 土田祐介
- 展示撮影** 土田祐介
- 資料協力** 明治大学図書館 | 神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）
- 写真提供** 磯部直希 | 早稲田大学 會津八一記念博物館 | 茅野市尖石縄文考古館 | 笛吹市教育委員会

03 展示構成

①アーケードギャラリー

- 1 渦巻の神秘
- 2 文様／装飾の宇宙
- 3 生命デザインの交流 ——生命の輝き・再生への祈り——



- 1 展示風景
- 2 ユーロ=アジア世界の文様／装飾資料
- 3 モンゴル遊牧民移動式住居ゲル（神奈川県立地球市民かながわプラザ蔵）
- 4 ゲルの内部
- 5 ギャラリーエントランス
- 6 ユーロ=アジア世界の渦巻文様
- 7 中国・剪紙文様（左）、京都・唐紙文様（中・右）

② 閲覧室 1 階

「ケルト装飾写本の大宇宙」



展示風景



『ケルズの書』ファクシミリ版 (明治大学図書館蔵)



『リンディスファーン福音書』ファクシミリ版
(明治大学図書館蔵)

③ 閲覧室 2 階

レコメンドブック展示「無限に広がる文様の世界」



展示撮影：土田祐介



◀◀ 展示風景

04 関連企画

■スペシャルトーク1

「岡本太郎における渦巻と生命の樹」

平野暁臣氏（岡本太郎記念館館長）、石井匠氏（芸術考古学者）を講師に迎え、鶴岡真弓（多摩美術大学芸術人類学研究所所長・教授）とともに、岡本太郎における渦巻と生命の樹を人間の根源や生命の輝きとして捉えていくことについて語り合われた。

日時：6月28日（金）14:45～16:30

会場：図書館・アーケードギャラリー

参加者数：95人



トーク1「岡本太郎における渦巻と生命の樹」

■スペシャルトーク2

「占星術とデザイン：渦巻のシンボルと魔法の世界」

鏡リュウジ氏（占星術研究家・翻訳家）を講師に迎え、鶴岡真弓とともに天体や宇宙に見られる「渦巻」「螺旋」「回転」について、占星術の視点からケルト神話などと交錯させながら語り合われた。

日時：7月5日（金）14:45～16:30

会場：図書館・アーケードギャラリー

参加者数：160人



トーク2「占星術とデザイン」

■講演「台湾原住民族にみる動物の生命循環」

野林厚志氏（人類学者・国立民族学博物館教授）を講師に迎え、パイワン族やヤミ族における狩猟文化の調査・研究をふまえて、台湾原住民族における人間と動物との関係性や動物観について語られた。

日時：7月11日（木）14:45～16:30

会場：図書館・アーケードギャラリー

参加者数：45人



講演「台湾原住民族にみる動物の生命循環」

■トークセッション+ミニライブ

「三巴の創造：大学・研究所・図書館のチャレンジ」

建畠哲氏（本学学長）を講師に迎え、平出隆（本学教授・図書館長・芸術人類学研究所所員）、鶴岡真弓とともに多摩美術大学における図書館・研究所の活動を紹介し、今後の新たな創造に向けての取り組みなどが語られた。「再生」をテーマに原田奈緒氏（打楽器奏者）によるドラム演奏がフィナーレを飾った。

日時：7月14日（日）14:00～16:00

会場：レクチャーホール・Cホール

参加者数：100名



トークセッション+ミニライブ「三巴の創造」

■レコメンドブック展示

学生有志による展覧会サポーターが「無限に広がる文様の世界」をテーマに、図書館蔵書のなかから「文様／装飾」に関するさまざまな書籍・雑誌などをセレクトして展示した。

会期：6月24日（月）～7月14日（日）

会場：図書館・閲覧室2階



レコメンドブック展示

■ワークショップ「ケルト渦巻缶バッジづくり」

装飾写本『ケルズの書』のキリストの頭文字「XPI」からお気に入りの渦巻をなぞり色付けしたものを缶バッジにするワークショップをおこなった。

開催日：7月13日（土）・14日（日）

＊本学オープンキャンパス開催日

会場：図書館・アーケードギャラリー

参加者数：40名（1日2回実施。各回定員10名）



ワークショップ「ケルト渦巻缶バッジづくり」



トーク「占星術とデザイン」会場風景



講演「台湾原住民族にみる動物の生命循環」会場風景



トークセッション+ミニライブ「三巴の創造」



左：ドラム演奏

中：会場風景



右：鶴岡真弓所長

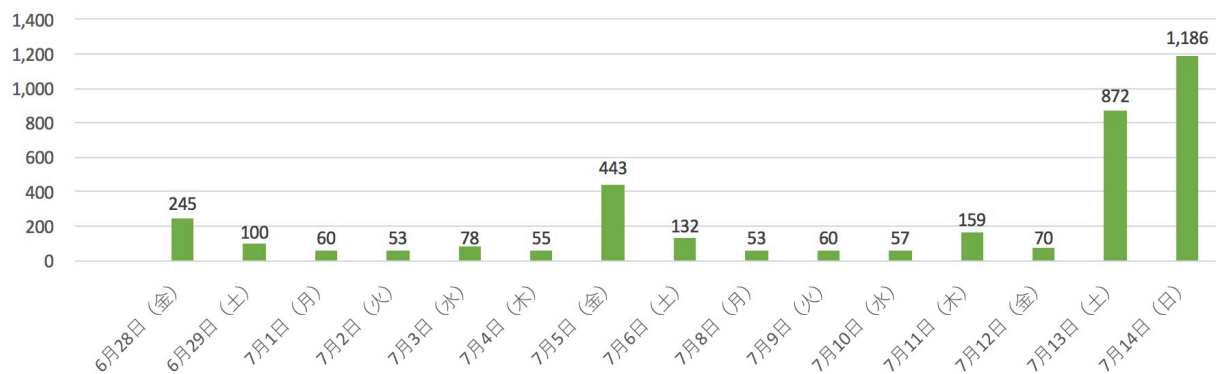
05 来場者数

総来場者数 3,623 人

- ・一日の平均来場者数は 241 人。
- ・会期中で来場者数が最も多かったのは、7月14日（日）の1,186人だった。

| | 月 日 | 天 気 | 来場者数 (人) | イベント 参加者数 (人) | 来場者数合計 (人) | 備 考 |
|----|----------|-----|-------------|------------------|---------------|-----------------------------------|
| 1 | 6月28日(金) | ☁ | 150 | 95 | 245 | スペシャルトーク1開催 |
| 2 | 6月29日(土) | ☂ | 100 | — | 100 | |
| 3 | 7月1日(月) | ☂ | 60 | — | 60 | |
| 4 | 7月2日(火) | ☁ | 53 | — | 53 | |
| 5 | 7月3日(水) | ☁ | 78 | — | 78 | |
| 6 | 7月4日(木) | ☂ | 55 | — | 55 | |
| 7 | 7月5日(金) | ☁ | 283 | 160 | 443 | スペシャルトーク2開催 |
| 8 | 7月6日(土) | ☂ | 132 | — | 132 | |
| 9 | 7月8日(月) | ☁ | 53 | — | 53 | |
| 10 | 7月9日(火) | ☁ | 60 | — | 60 | |
| 11 | 7月10日(水) | ☁ | 57 | — | 57 | |
| 12 | 7月11日(木) | ☂ | 114 | 45 | 159 | 講演会開催 |
| 13 | 7月12日(金) | ☂ | 70 | — | 70 | |
| 14 | 7月13日(土) | ☁ | 852 | 20 | 872 | OC1日目・ワークショップ開催 |
| 15 | 7月14日(日) | ☂ | 1,066 | 120 | 1,186 | OC2日目・ワークショップ開催 トークセッション+ライブ開催 |
| 合計 | | | 3,183 | 440 | 3,623 | |

来場者数 (人)



※会期は15日間。

※「来場者数」：平日は会場パンフレットの配布数をカウント、土日は会場監視スタッフがカウントをおこなった。

06 展覧会サポーター

多摩美術大学の学生を対象に、展示運営に協力してくれる学生サポーター（無償）を募集。今回は、展示会場の設営をおこなう「A 展示・設営サポーター」、会期中に開催する関連イベントの会場対応の「B 会場サポーター」、そして本学図書館との連携として図書館内に本展関連書籍を選書、展示する「C レコメンドブック展示サポーター」の三つの担当に分かれて活動をおこなった。昨年以上に積極的な学生たちの参加を得て、展示準備から会期中を通じて展覧会の成功に大きく貢献した。活動後のアンケートには、展示・設営作業においてモンゴルの移動式住居ゲルの組み立てやイベント運営に携わったことなどが良かったとの意見が多く寄せられた。今回のサポーター活動が学生たちにとって貴重な経験となったことが伺われる。

◎参加者数／活動内容

総参加者数 38 人

※参加者の延人数：54 人

| 活動名 | 活動内容 | 実施日数 | 参加者数 (延数) |
|-------------------|---|-------|--------------|
| A 展示・設営サポーター | ギャラリーでの設営・資料の展示作業などをおこなった。 | 計 3 日 | 25 人 |
| B 会場サポーター | トークイベントでの会場設営・参加者の誘導、オープンキャンパスでの缶バッジづくりワークショップの指導をおこなった。 | 計 4 日 | 20 人 |
| C レコメンドブック展示サポーター | 図書館の蔵書から「文様／装飾」に関連する書籍を選び、閲覧室 2 階丸テーブルにて紹介・展示した。展示デザインやキャプション制作なども分担作業でおこなった。 | 計 4 日 | 9 人 |
| 合計 | | 11 日 | 54 人 |

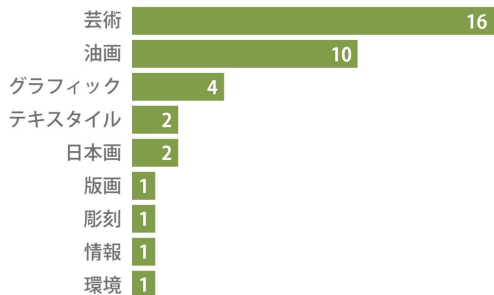
■サポーター活動のあゆみ

- 5/8 (水)～ IAA ウェブサイトにて「展覧会サポーター募集」公開・登録開始
- 5/16 (木)～ IAA 所員開講授業にて、展覧会開催とサポーター募集の PR
- 5/29 (水) 登録者説明会開催（会場：IAA）
- 6/5 (水)～ レコメンドブック展示サポーター活動開始
- 6/22 (土) レコメンドブック展示・設営作業
- 6/25 (火) ギャラリー展示・設営作業 1 日目（展示・設営サポーター）
- 6/26 (水) ギャラリー展示・設営作業 2 日目（展示・設営サポーター）
- 6/28 (金)～ 関連イベント開催時の設営・誘導（会場サポーター）
- 7/16 (火) ギャラリー展示撤去・搬出作業（展示・設営サポーター）

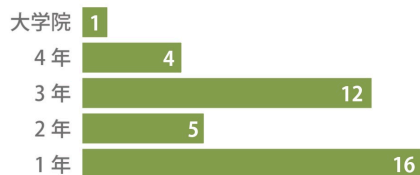
◎サポーターのプロフィール

■参加者データ

●所属学科



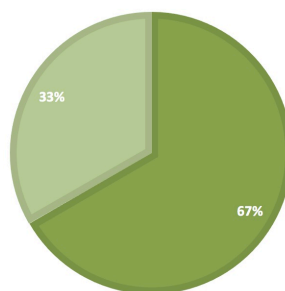
●学年



■活動について

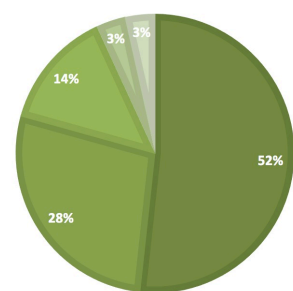
●サポーター活動に参加して

■とても良かった ■良かった



●サポーター活動を知ったきっかけ

■授業での説明会 ■ポスター掲示 ■友人・知人の紹介
■ゼミでの紹介 ■IAA twitterを見て



◎サポーターアンケートの結果

集計期間：7月16日（火）～7月31日（水）

調査対象：展覧会サポーター参加者（任意）

回答数：28件

サポーターの声

■展示・設営サポートについて

- ゲルについて知っていたが、実際に組み立てることができて理解が深まった。（環境・4年）
- なかなか展示の裏方にまわることはないので会場作りは貴重な経験でした。将来にも生かせると思います。（芸術・1年）
- 将来学芸員になりたいと思っているので、展示設営に関われたのは良い機会でした。（芸術・1年）
- （展示設営は）今までやったことが無かったので楽しかったです。全体のバランスを合わせる仕事が多く、思っていたよりも大変でした。生地や素材を触ることができたのが良かったです。（油画・1年）

■会場サポートについて

- オープンキャンパスに来てワークショップに参加してくださった方たちと触れあえたので良かったです。小さい子や外国の方などいろいろな方が多摩美に興味を持っているということを実感しました。受験生やOGの人と話せたのも感慨深かったです。（油画・3年）
- 小さい子から大きい人までワークショップを楽しみながら集中している様子を見て、自分も何か他のことをするときには、取り入れられそうだなと思った。（芸術・2年）

■レコメンドブック展示サポートについて

- 今回はとても新鮮な体験でした。普段は入れないような場所で展示を考え、同じ志の学生たちと活動するのは生き生きとした気持ちになりました。(芸術・4年)
- 話し合いを進めて形にしていくことは自分の学科だと少ないので良い経験になった。(油画・1年)
- 普段交流のない学科の方たちと交流でき、考え方や興味の方角の違いがみえてとても面白かった。自分の選択した本が展示されているのは中々うれしい。(油画・2年)
- 初めて展示の設営・計画側に立てて、展示をするときに注意すべきことや、より良い見せ方などを学んだ。そういった経験を今後自分が作品を展示するときに応用していきたい。(グラフィック・4年)



移動式住居ゲルの組み立て (6月25日)



図書館スタッフとのミーティング (6月5日)



資料の展示作業 (6月26日)



ワークショップでの指導 (7月13日)



展示・設営作業 (6月25日)



缶バッジづくりワークショップ (7月13日)



レコメンドブック展示ミーティング (6月12日)

07 広報・プロモーション

学内外に向けて展示開催の周知として、芸術人類学研究所のホームページや SNS など複数のインターネットツールを活用し情報発信をおこなった。とりわけ、今回は情報の速報性や拡散力が見込まれる twitter での告知を中心としたことが、これまで情報が届いていなかった層への訴求へつながり、ひいては研究所全体の認知向上にもなった。

◎ウェブ

■IAA ホームページ、twitter

5/8 (水) IAA ホームページ、5/14 (火) IAA twitter にて開催情報を公開した。twitter では、開催概要のストレート情報に加え、会期前と会期中にわたり展示風景などの写真や展示担当者による展示ポイントを盛り込みながら、様々な角度からの情報発信に努めた。

■チラシミュージアム

全国の美術館・博物館で開催中の展覧会フライヤーを閲覧できるアプリ「チラシミュージアム」に登録し、情報公開をおこなった。



IAA twitter での情報発信



「チラシミュージアム」での情報発信

◎制作物

■フライヤー、ポスター

展覧会コンセプトを表現したイメージビジュアルを用いてダイナミックかつ華やかなデザインに製作し、関心を引くことを意識した。フライヤー、ポスターは学内の各学科・部署へ配布・掲示を依頼するとともに、多くの学生が往来する食堂や共通教育棟の掲示板に掲示した。また、展示関係者（後援機関、イベント出演者など）、都内の美術館・博物館・関連大学・機関へ郵送し、配布・掲示依頼をおこなった。

【フライヤー仕様】A4/両面カラー＋特色/b7トラネクスト 99kg/10,000部

【ポスター仕様】A1/片面カラー＋特色/b7トラネクスト 120.5kg/100部



フライヤー表面

■パンフレット

展示解説及び関連図版を掲載した展示パンフレットを、フライヤー、ポスターとデザインを統一して製作した。会期中、展示会場にて来場者に無料配布をおこなった。

【パンフレット仕様】A5（観音折 8p）／両面カラー＋特色/b7トラネクスト 86kg/1,000部



パンフレット（観音開き）外面



パンフレット（観音開き）内面

◎その他

展覧会開催の周知と会場への誘導を目的に、大学正門及び東門横、図書館出入口にバナーを設置した。また、メディアセンター1F エントランス、グリーンホール（食堂）のデジタルサイネージにて広告展開をおこなった。



正門前のバナーを設置



デジタルサイネージ

多摩美術大学 芸術人類学研究所

所 長 鶴岡真弓

所 員 安藤礼二

榎木野衣

平出 隆

港 千尋

スタッフ 有馬智子

大友真希

大西由佳

渦巻の大宇宙

——ユーロ=アジア文明をつらぬく生命デザイン——

実施報告書

発行日

2019年10月9日

編集・作成

大友真希

発行

多摩美術大学 芸術人類学研究所

〒192-0394 東京都八王子市鍵水 2-1723 (メディアセンター4F)

TEL 042-679-5697

FAX 042-679-5698

www.tamabi.ac.jp/iaa/

© 2019 Institute for Art Anthropology, Tama Art University

無断転写、転載、コピーを禁じます。

